

船舶事故調査報告書

令和2年2月26日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	令和元年8月3日 20時30分ごろ
発生場所	福岡県北九州市白島北方沖 白島国家石油備蓄基地シーバース灯から真方位007° 1.3海里 付近 (概位 北緯34° 02.5′ 東経130° 44.5′)
事故の概要	プレジャーボート ^{サンカイ} SANKAI IIは、航行中、機関室に浸水した。
事故調査の経過	令和元年8月14日、主管調査官（門司事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート SANKAI II、5トン未満（長さ8.29m） 290-43338福岡、個人所有 ディーゼル機関、4サイクル、出力132.4kW、回転数毎分 3,600、6気筒、ボア94mm、使用燃料軽油
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	電気系統に濡損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、親族1人を乗せ、釣りを終えて航行中、海水流量警報ランプが点灯したので、船長が機関室を点検したところ、同室に海水が浸入している状況を認め、機関を停止した。</p> <p>本船は、船長が浸入した海水を排出しようとポンプを持ち出したものの、ポンプを破損させて使用できなくなったので、海上保安庁に救助を要請し、バケツで排水を行いながら救助を待っていたところ、巡視艇が来援し、同艇にえい航されて関門港若松区に入港した。</p> <p>本船は、本事故後、機関整備業者により修理が行われ、冷却海水系統の清水冷却器のドレン抜きボルトが脱落しており、ねじ山が経年により錆びているのが確認された。</p> <p>船長は、発航前に機関室の点検を行い、ビルジが滞留していないことを確認していた。</p>
分析	本船は、冷却海水系統の清水冷却器のドレン抜きボルトが長年点検されていない状態で航行していたところ、同ドレン抜きボルトが経年使用により劣化して脱落したことから、清水冷却器から海水が漏えいして機関室に浸水したものと考えられる。
原因	本事故は、夜間、本船が冷却海水系統の清水冷却器のドレン抜きボルトが長年点検されていない状態で航行していたところ、同ドレン抜

	<p>きボルトが経年使用により劣化して脱落したため、清水冷却器から海水が漏えいして機関室に浸水したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・清水冷却器のドレン抜きボルトは、定期的に点検し、必要に応じて交換すること。